

令和 7 年度

矢巾町ヤングケアラー実態調査報告書

矢巾町こども家庭課

令和 7 年 12 月

目 次

1. 調査概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2～10
3. 考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11～12
4. まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
5. 資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14～18

1. 調査概要

(1) 調査目的

本町では、令和5年度に町立小中学校に通う小学5年生から中学3年生までを対象に「ヤングケアラー実態調査」を実施、「世話をしている家族がいる」と回答した人の割合は、小学生で19.8%、中学生で11.6%となった。一方、全体の約80%が「言葉を聞いたことがない」「内容が分からない」と回答した。

このことから、令和6年度はヤングケアラー（本来、大人が担うと想定されている家事や家族の世話等を日常的に行っているこども・若者）について、啓発パンフレットの配布や GIGA スクール端末のお知らせ機能により周知を実施しており、矢巾町の児童生徒におけるヤングケアラーの認知度及びヤングケアラーと思われる児童生徒の実態を把握し、必要な支援につなげ、もってこどもの権利を守ることを目的とする。

(2) 対象

町内小中学校に通う小学5年生から中学3年生まで
対象児童生徒数 1,160名（令和7年9月1日時点）

(3) 実態調査期間

令和7年9月1日（月）から令和7年3月31日（火）まで

(4) 調査の方法及び回答期間

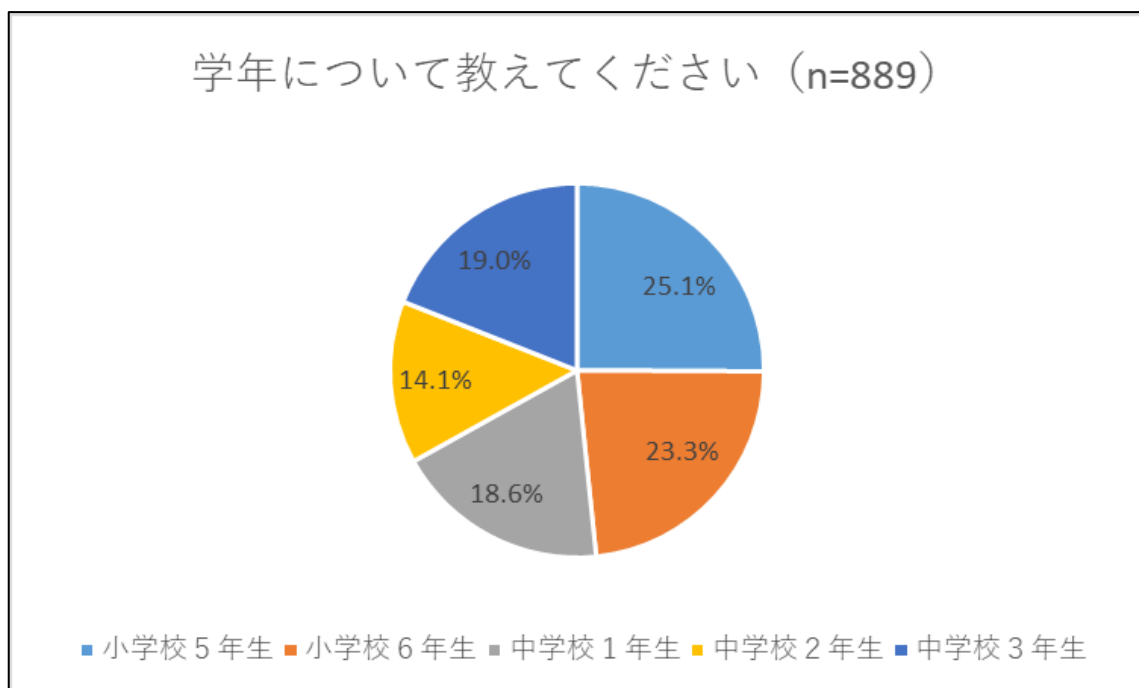
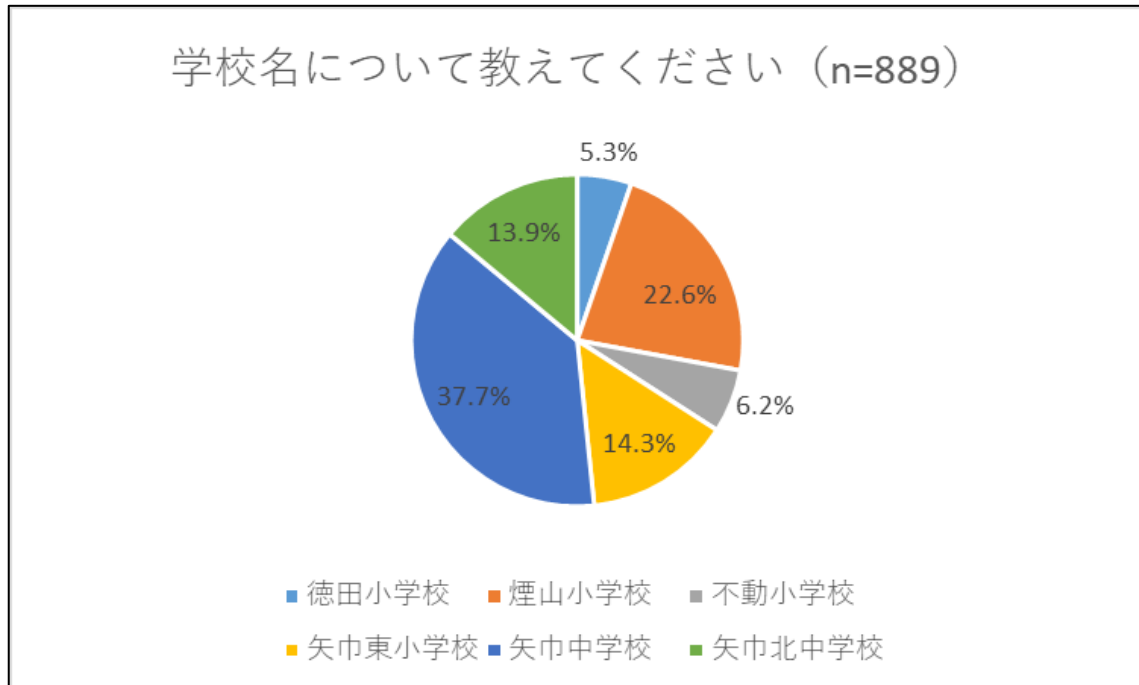
- Google forms による Web 回答（各児童生徒の個人端末による入力）
※各校において実施
※アンケートに氏名を記載した児童生徒については、こども家庭課職員又は学校において個別に面談等を実施する。
- 令和7年9月1日（月）から令和7年9月30日（火）まで

(5) 調査結果

	調査対象者数	回答者数	未回答者	回答率
小学生	467	430	37	92.1%
中学生	693	459	234	66.2%
合計	1,160	889	271	76.6%

2. 調査結果

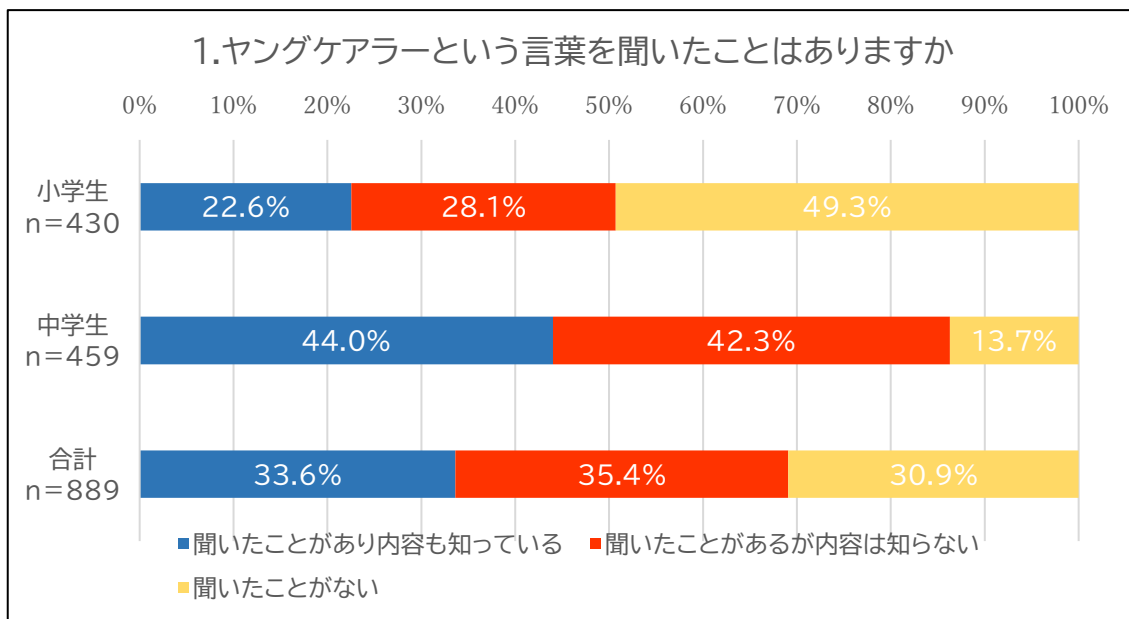
(1) 基本情報



○回答率について中学生の回答率が約 66%となっている。

★前回の中学生の回答率は約 86%だったため回答率は大幅に下がる結果となった。

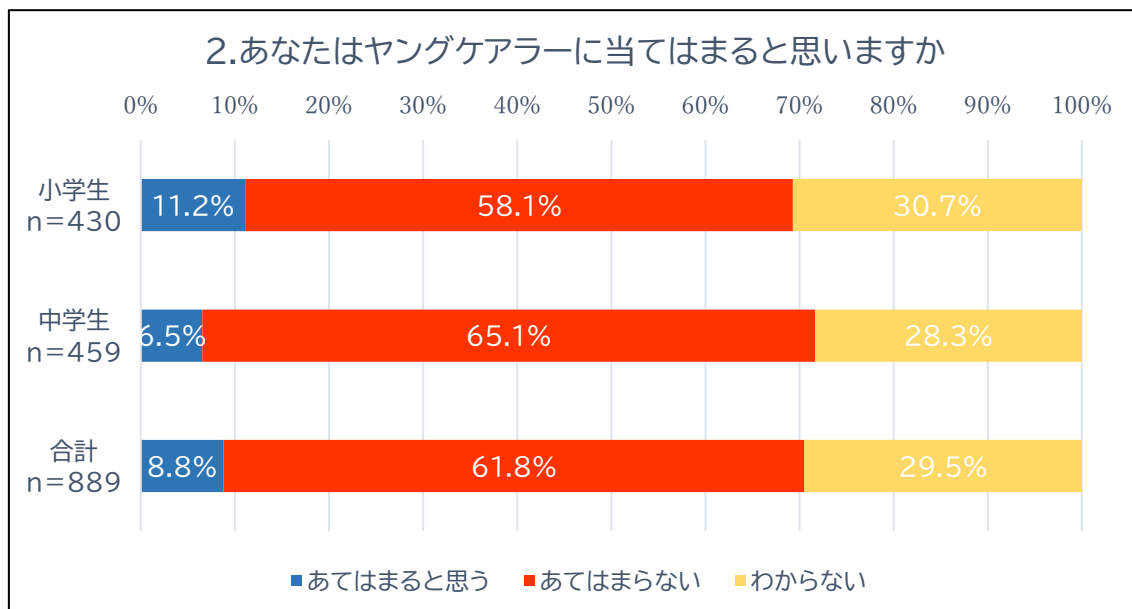
(2) 調査事項 (★＝前回調査結果と比較)



○「聞いたことがない」と回答した人の合計が約 30%になった。

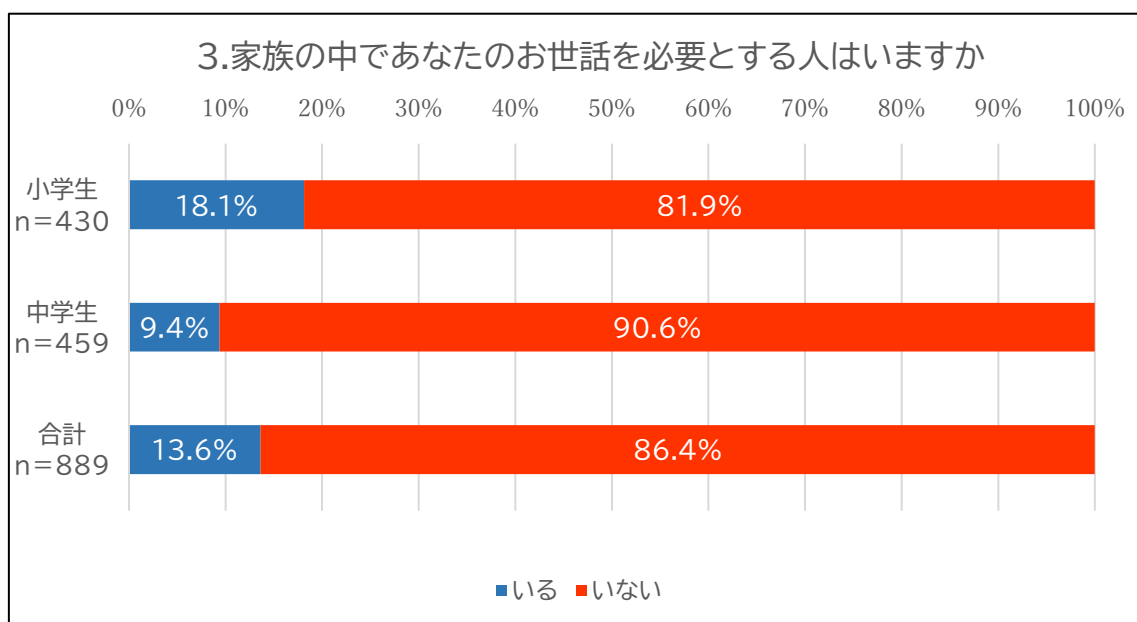
★前回の「聞いたことがない」と回答した人は約 57%で割合が下がっており、周知が進み、認知度が上がっていることが分かった。

○中学生の方が、ヤングケアラーについて聞いたことがある割合が高かった。



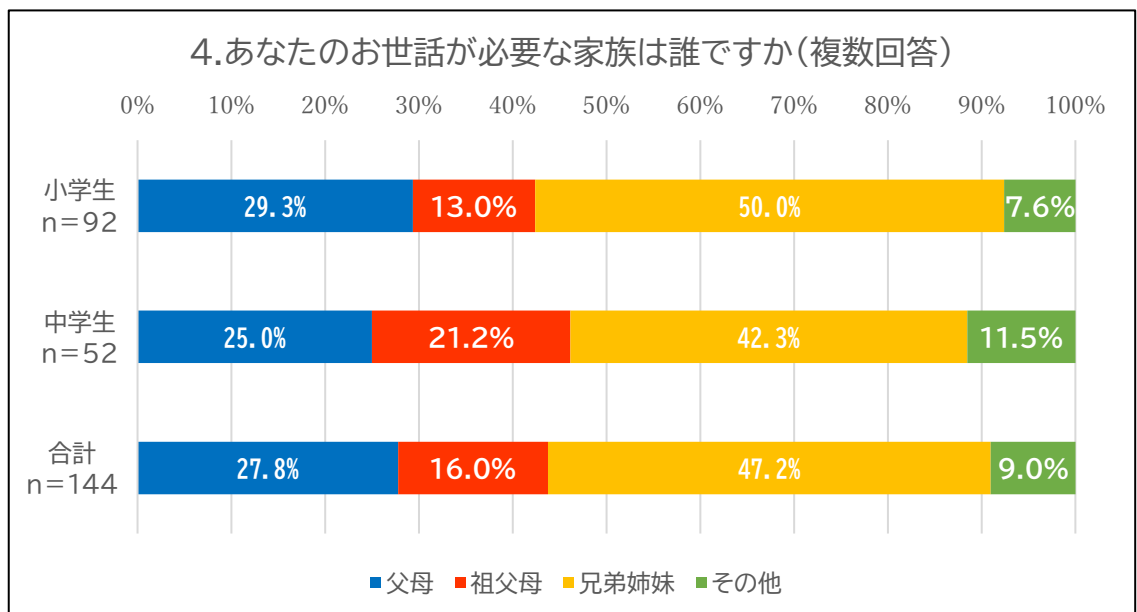
○「あてはまらないと思う」が全体の約 60%、「わからない」が全体の約 30%になった。

★前回は中学生の方が「あてはまると思う」の割合が高かったが、今回は小学生の方が割合が高かった。



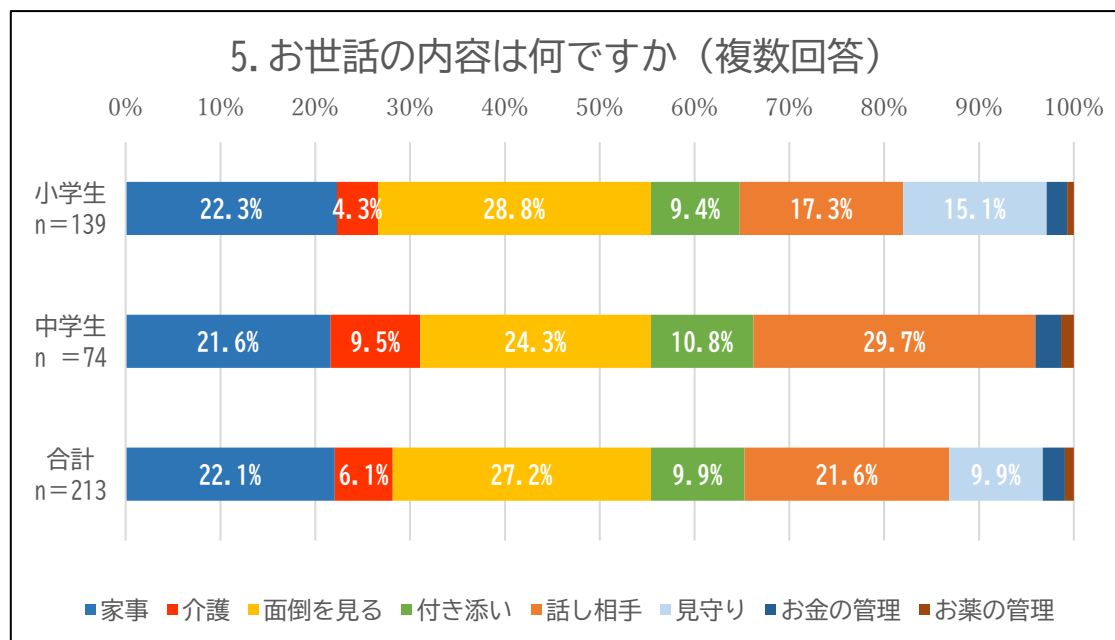
○「いない」が全体の約 85%になった。

★前回結果とほぼ同じ割合となった。

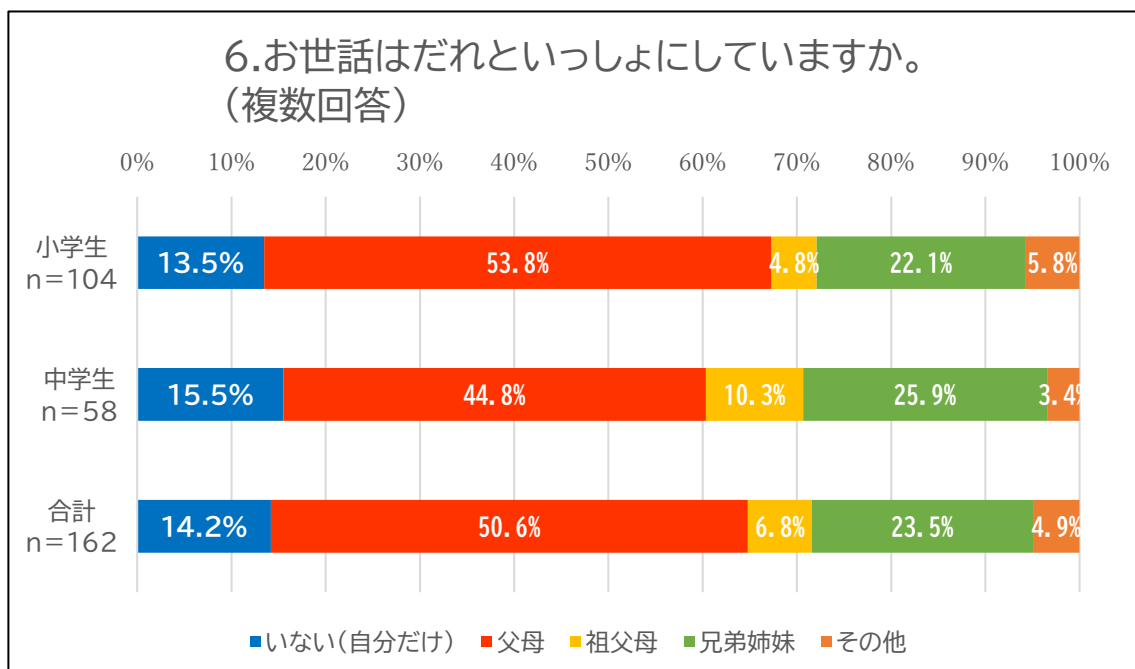


○小学生、中学生ともに「兄弟姉妹」の割合が高く、次いで「父母」となった。

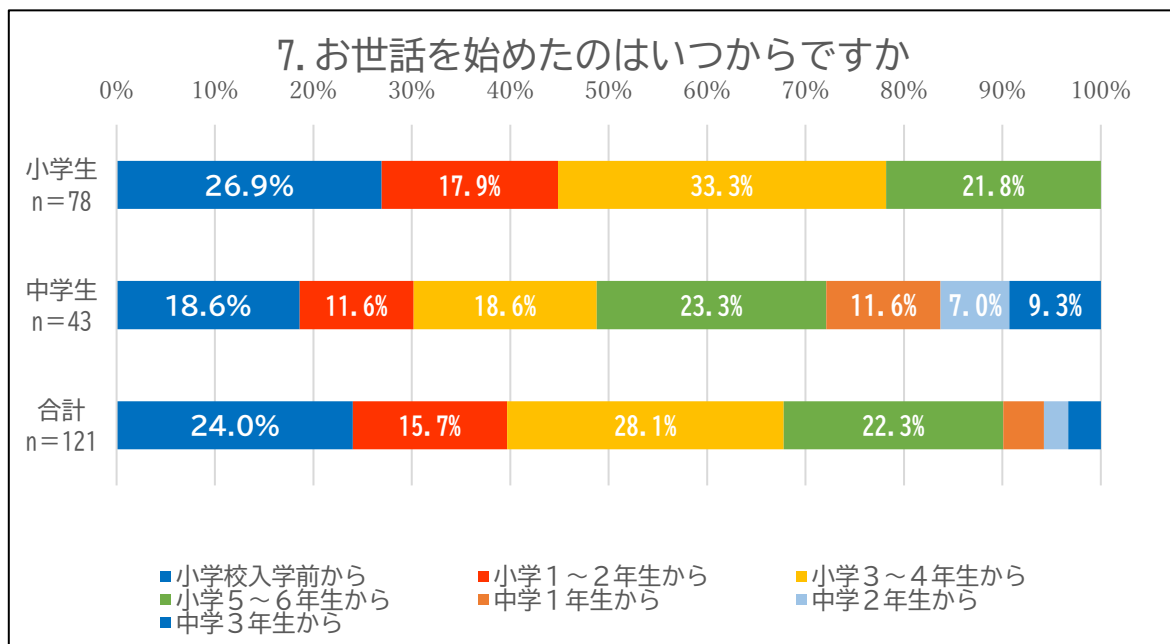
★前回は小学生は「父母」の割合が最も高く、中学生は「兄弟姉妹」の割合が最も高かった。



○小学生は「面倒を見る」の割合が最も高く、次いで「家事」、「話し相手」となった。
 ○中学生は「話し相手」の割合が最も高く、次いで「面倒を見る」「家事」となった。
 ○小学生、中学生ともに少数ではあるが「お金の管理」「お薬の管理」の回答もあった。
 ★前回よりも「面倒を見る」「介護」「話し相手」の割合が小学生、中学生ともに上がっている。特に中学生の「話し相手」の割合は、前回 19.0%から今回 29.7%に増加している。



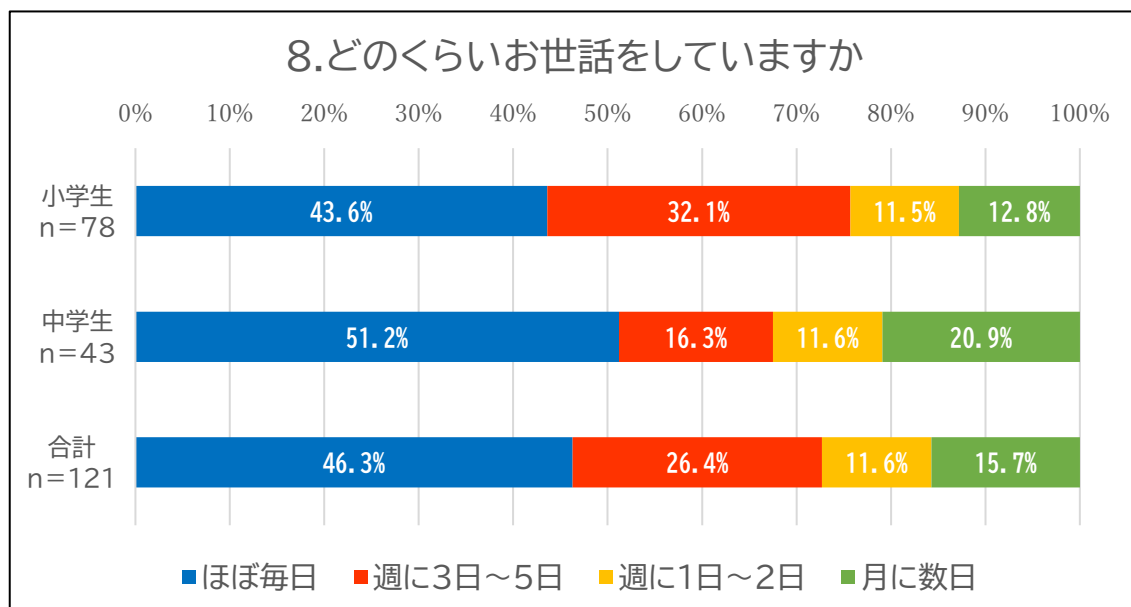
○小学生、中学生ともに「父母」の割合が一番高く、次いで「兄弟姉妹」となった。
 ★前回の結果とほぼ同じ割合となった。



○小学生は「小学校3～4年生から」の割合が一番高く、次いで「小学校入学前から」となった。

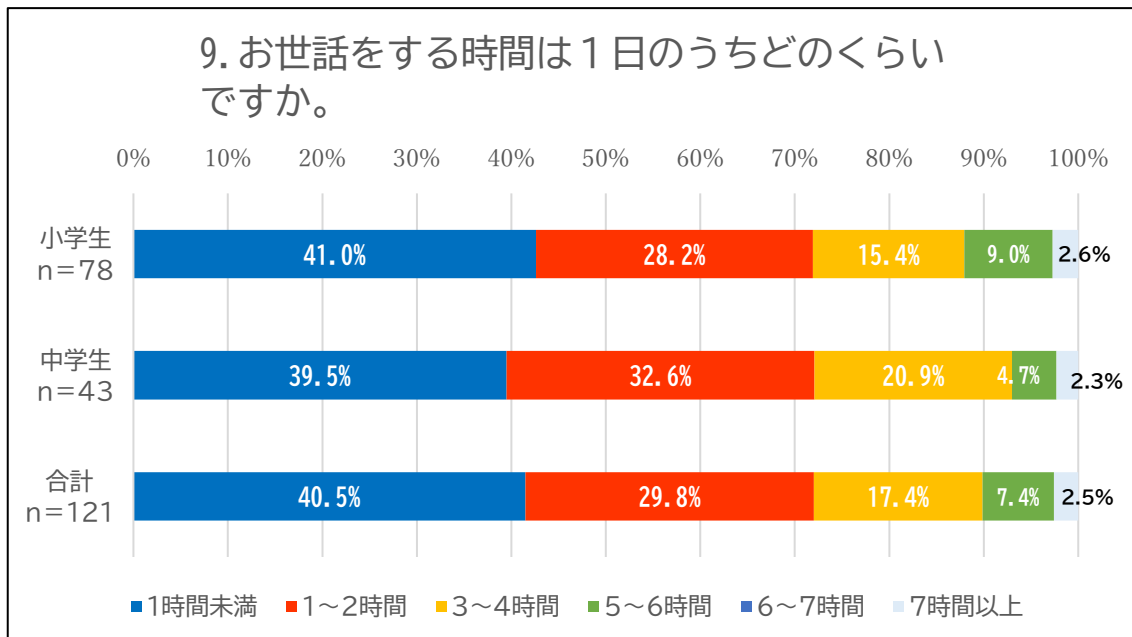
○中学生は「小学校5～6年生から」の割合が一番高く、次いで「小学校入学前から」、「小学校3～4年生から」が同じ割合となった。

★前回の結果とほぼ同じ割合となった。



○小学生は「ほぼ毎日」の割合が一番高く、次いで「週に3日～5日」、「月に数日」となった。

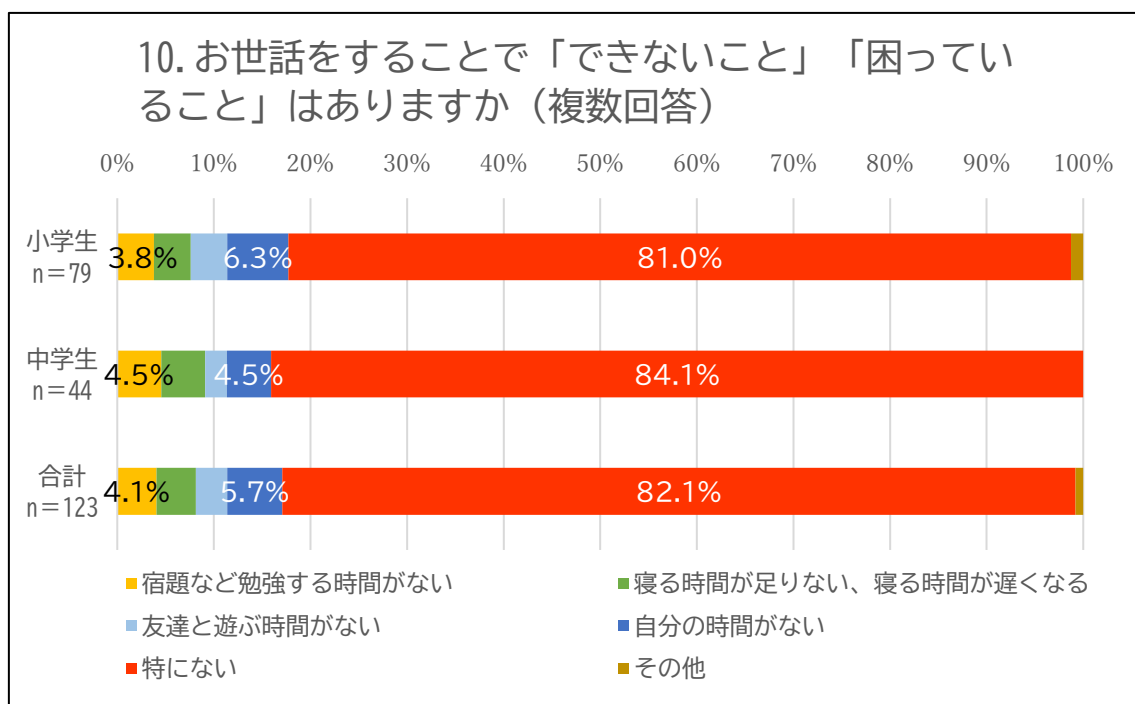
○中学生も同様に「ほぼ毎日」の割合が一番高く、次いで「月に数日」、「週に3日～5日」となった。★前回よりも小学生の「週1日～2日」の割合が減り、「3日～5日」の割合が高くなった。



○小学生、中学生ともに「1時間未満」の割合が一番高く、次いで「1～2時間」、「3～4時間」となった。

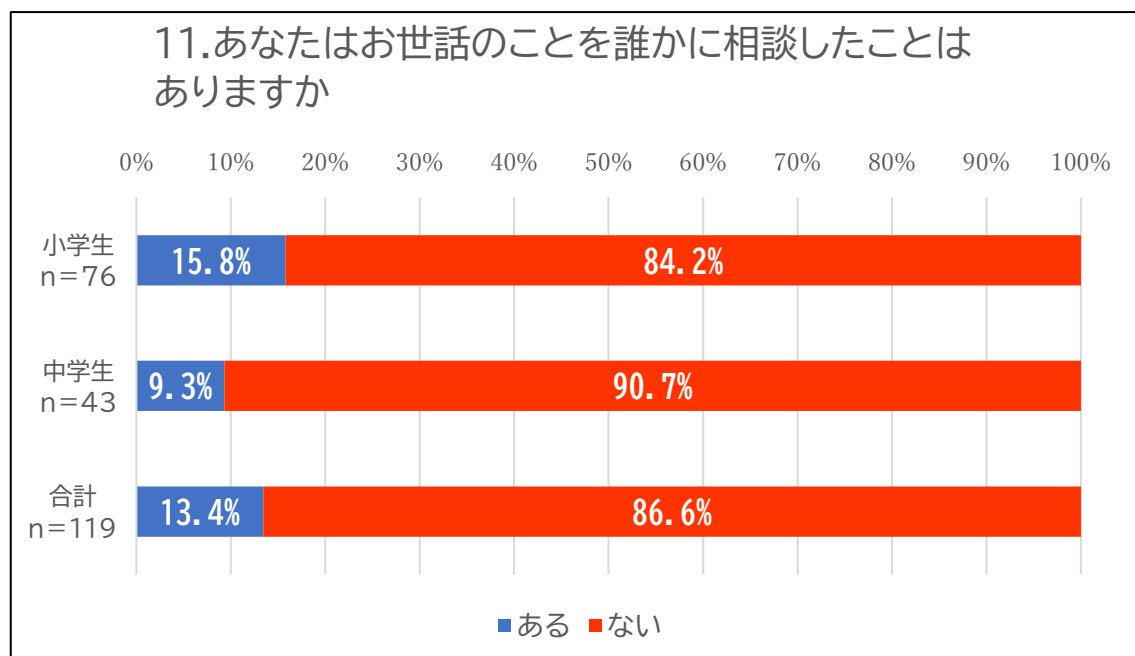
○小学生、中学生ともに「7時間以上」の割合が約3%あった。

★前は小学生、中学生ともに「7時間以上」の割合が約10%あったが今回は約3%となった。

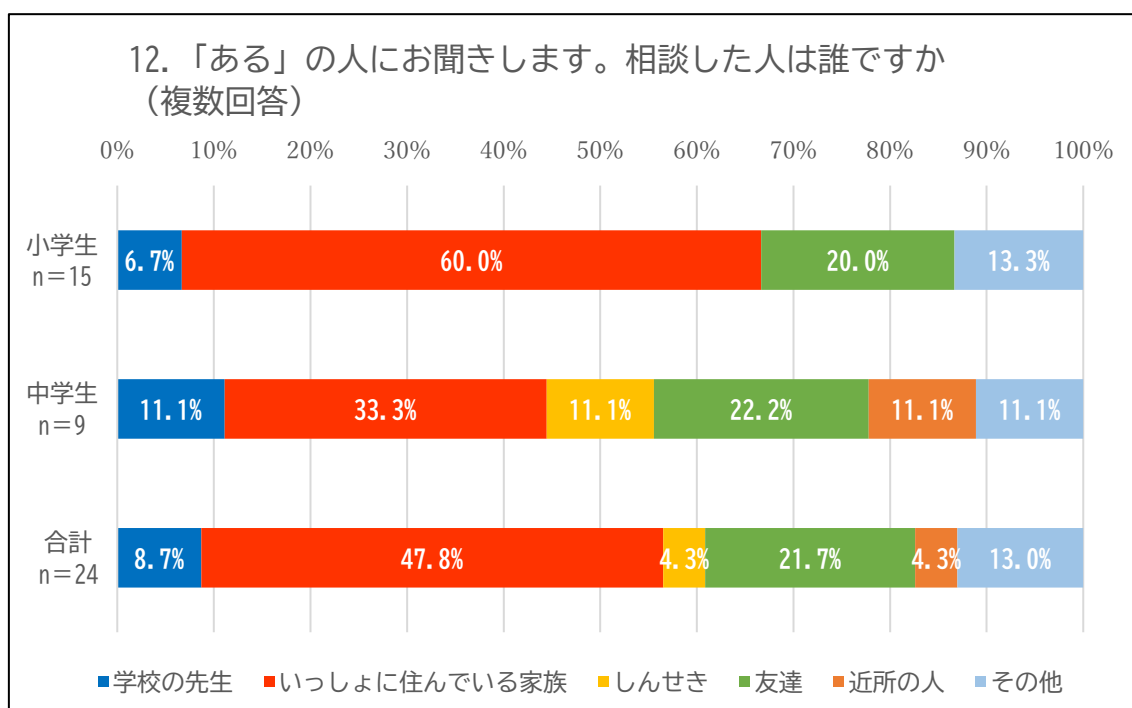


○小学生は「特にない」の割合が一番高くなった。「自分の時間がない」の割合が中学生に比べて高い割合となった。

○中学生も同様に「特にない」の割合が一番高くなった。「宿題など勉強する時間がない」の割合が小学生に比べて高い割合となった。

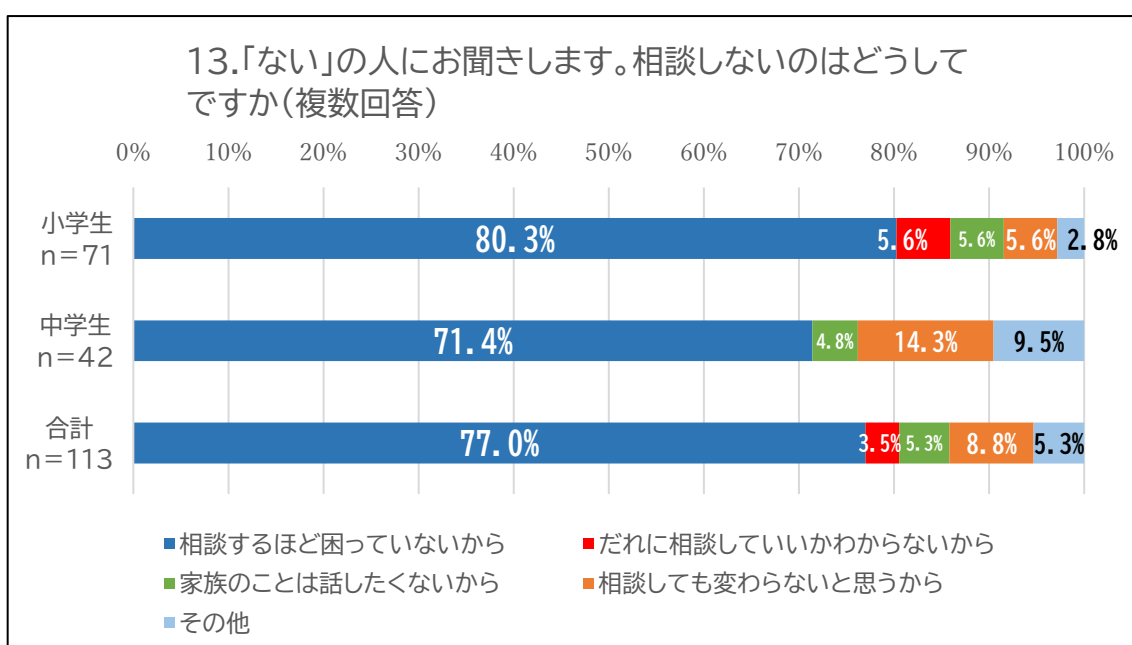


○小学生、中学生ともに「ない」の割合が80%以上となった。★前回と同様に「ない」の割合が多かった。中学生は「ある」の割合が前回 23.9%から今回 9.3%と減少した。



○小学生は「いっしょに住んでいる家族」の割合が一番高く、次いで「友達」、「その他」と続いた。その後は近所の人等の意見が挙がった。

○中学生も同様に「いっしょに住んでいる家族」の割合が一番高く、次いで「友達」、同率で「学校の先生」「しんせき」「近所の人」となった。



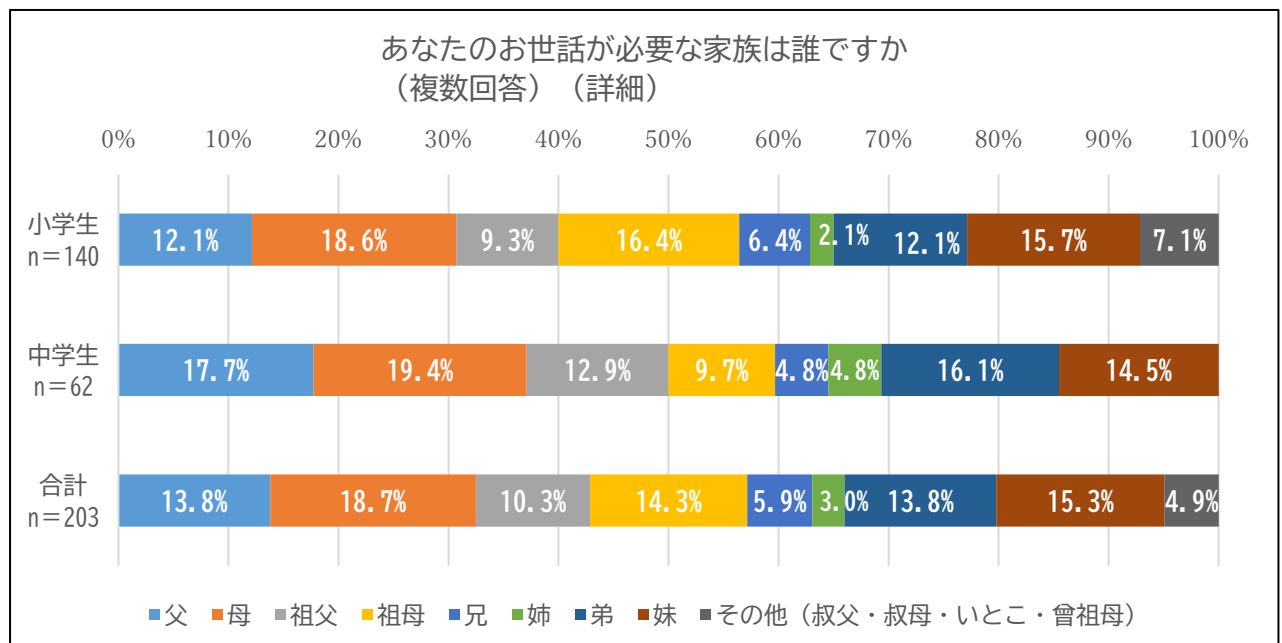
○小学生、中学生ともに「相談するほど困っていないから」の割合が一番高くなった。
★前回よりも「相談しても変わらないと思うから」と答える人の全体の割合が2.4%から8.8%と上昇している。

14.その他、伝えたいことがあれば、自由に書いてください（自由記載）（一部抜粋）

- ヤングケアラーのようなことが無いとよいと思います。
- おばあちゃんが認知症になっているかもで、少し寂しい。
- 徐々にでも家族のためになることをしていきたいと思いました。
- もしヤングケアラーの人がいたら、気軽に相談できる人をもっと増やして、自分たちで選択できるように選択肢を増やした方がいいと思う。
- 「ぼくが選ぶぼくがいる場所」という本でヤングケアラーについて知りました。ヤングケアラーは無い方がいいと思うので、なくしていきたいです。
- 妹と一緒に学校に行きたくない。妹が学校にいるのは嫌。いつも妹が私を学校で見かけたらパンチをしているみたいだけど本当にしてない。私は外国人で日本語喋れるけど妹はあまり上手じゃなく時々通訳しないとイケないときもある。
- ヤングケアラーについてもっといろんな人に認知され、補助ができるような環境を作ってほしい。
- ヤングケアラーが楽しく暮らせる世界ができますように。

3. 考察

- ▶中学生の回答率が66%となっており、前回の86%よりも大幅に減少している。今後調査する際には、実施時期や時間を検討し回答しやすい環境を整える必要がある。
- ▶ヤングケアラーの認知状況について、前回の調査では約80%の児童生徒が内容を理解していない状況であったが、今回の調査では「聞いたことがない」「聞いたことがあるが内容は知らない」と回答した児童生徒が約65%となっており、減少しているためヤングケアラーに対する認識が少しずつ広がっていると考えられる。ただ、小学生の「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した割合は約20%と低いため、今後もわかりやすい内容の周知が必要であると考ええる。
- ▶家族の中でお世話を必要とする人の割合の詳細は以下の通りである。



家族の中でお世話を必要とする人がいる割合は、小学生については「父母」のうち「母」の方が割合が高い。また、「兄弟姉妹」のうち「弟」「妹」の割合が高くなっている。中学生についても同様の傾向だが、小学生に比べて「祖父母」の割合が増え、「祖父」と「祖母」を比較すると「祖父」の割合が高い結果となった。

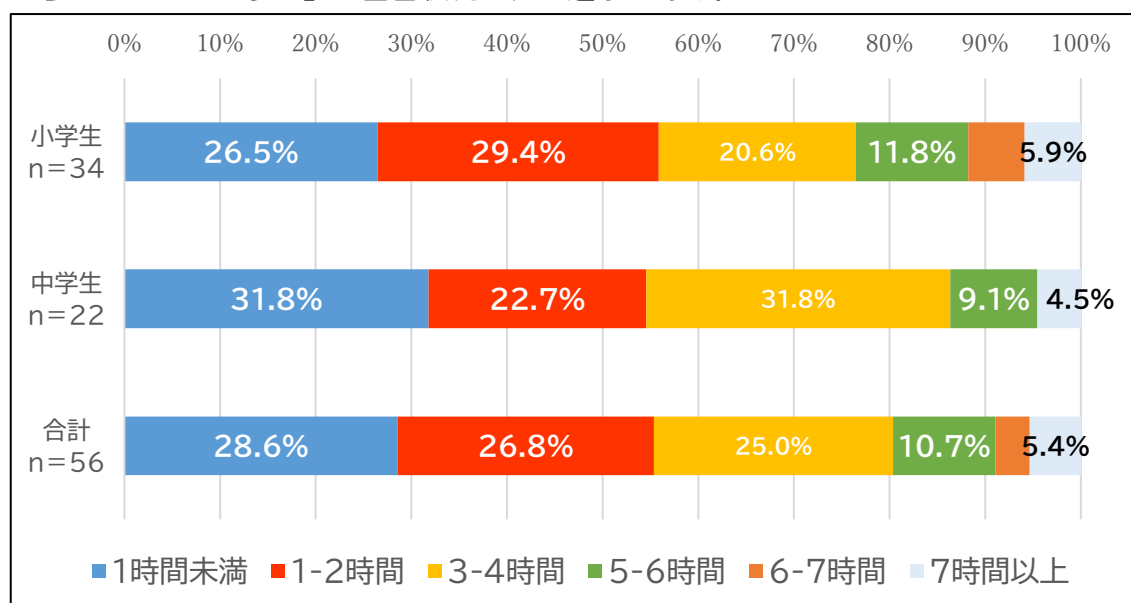
- ▶お世話の内容は小学生が「面倒を見る」の割合が最も高く、次いで「家事」、「話し相手」となった。中学生は「話し相手」に割合が最も高く、次いで「面倒を見る」「家事」となった。中学生の「話し相手」のお世話は父母から兄弟姉妹、祖父母までを対象にしているようだった。少数ではあるが「介護」が全体の6%、「見守り」が約10%

「お金の管理」2.3%、「お薬の管理」0.9%とあった。いずれも小学生より中学生の方が高い割合を示しており、年齢とともに負担の大きいお世話を行っている状況が見受けられた。

▶ お世話を始めた時期については、小学生の約 30%、中学生の約 20%が「小学校入学前から」と回答しており、幼いころから世話をしている状況が見受けられた。また前回の調査より小学生の割合は上がっていることが判明した。

▶ 世話の頻度と時間については「ほぼ毎日」「週に 3～5 日」を合わせると全体の 72%を超え日常的に世話をする児童生徒は前回よりも多くなった。（前回は約 70%）

※参考として「ほぼ毎日」と回答した児童生徒における「9.お世話する時間は 1 日のうちのどのくらいですか」の回答状況は次の通りである。



「1 時間未満」「1-2 時間」「3-4 時間」の割合がほぼ同じ割合となった。また、設問 10 と関連し、5 時間以上世話をしていると答えた児童生徒は困っていることとして「寝る時間が足りない」「寝る時間が遅くなる」「友達と遊ぶ時間がない」「自分の時間がない」と回答しており、自分の時間を削ってお世話をしている様子がうかがえた。

前回の調査と比較すると「ほぼ毎日」と回答した児童生徒のうち、全体の約 55%が「1 時間未満」「1-2 時間」と回答しており、前回の 50%よりも上昇している。「ほぼ毎日」と回答した生徒児童の方が「7 時間以上」と回答する割合が多かった。

▶ 世話をすることの影響として「特にない」が多くを占めるが、小学生、中学生ともに「自分の時間がない」と答えた児童生徒が一定数いた。

▶相談状況と相手については、相談したことがある小学生・中学生は全体の約 15%で前回よりも下がっている。(前回約 20%) 相談相手は家族、友人、学校の先生であり身近な人が相談先になっている。相談したことが無い小学生・中学生は全体の 86%と高く、そのうちの約 80%が「相談するほど困っていない」と回答した。世話をすることで「出来ないこと」「困っていること」が「特にない」と回答した割合も約 85%になっていることから、このような結果になっていると考えられる。相談しない理由として小学生は「誰に相談していいかわからないから」「家族のことは話したくないから」「相談しても変わらないと思うから」が同数、中学生については「相談しても変わらないと思うから」という回答が多くなっていた。相談することの必要性やその先の相談支援の対応や必要な社会資源につなげることで相談してよかったと思える環境を整える必要があると考えられる。

4. まとめ

今回の調査において、「ヤングケアラーという言葉聞いたことはありますか」という設問に対し、「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した割合は全体の約 34% になっており、前回（R5 年度）の調査より約 14% 上昇している。リーフレットやポスターなどを目にする機会が増えたため認知度の上昇につながったと思われる。

「自分はヤングケアラーにあてはまると思う」と回答した人の割合については中学生で 6.5%、小学生で 11.2% になっており、前回（R5 年度）の調査より中学生は減少、小学生は増加していることが伺えた。

お世話について誰かに相談したことが「ない」と答えた人のうち、「相談しても変わらない」と回答した中学生の割合は 14.3% と前回の 3.8% よりも大幅に上昇している。こども家庭庁の実態調査でも課題として挙げられていたが、ヤングケアラーは家庭内のデリケートな問題であり、表面化しにくい構造であるため、地方自治体の現状把握も不十分であり、支援に繋ぐための窓口が明確でないことが言われている。

今後福祉、医療、介護、教育など関係機関が連携し、ヤングケアラーを早期に発見し、適切な支援につなげるため、支援者側への研修会や学ぶ機会の推進が必要である。また児童生徒が必要時に相談できるよう、地域にあるフォーマルな社会資源のほかにピアサポーターなどインフォーマルな資源もあることを周知する必要がある。

ヤングケアラーの認知度の把握及び支援体制の充実を図るために、今後も定期的にアンケート調査を実施する必要がある。

5. 資料

アンケート調査 調査項目（イメージ）

矢巾町では、みなさんの生活についてアンケートを行うことにしました。たくさんの意見を集めて、できることを考えたいと思いますので、ご協力をお願いします。

あなたが書いた内容はだれかに知られることはありませんが、「話がしたい」、「相談したい」という人のために名前を書けるようにしています。名前を書ってくれた人には、役場のこども家庭課の人や学校の先生がお話を聞きます。

学校名について教えてください。

- 徳田小学校
- 煙山小学校
- 不動小学校
- 矢巾東小学校
- 矢巾中学校
- 矢巾北中学校

学年について教えてください。

- 小学5年生
- 小学6年生
- 中学1年生
- 中学2年生
- 中学3年生

クラスをキーボードで入力してください。答えたくないときは未回答でも大丈夫です。

()

性別を教えてください。

- 男
- 女
- どちらでもない
- 答えたくない

1. ヤングケアラーという言葉聞いたことはありますか。

※ヤングケアラーとは、大人が行うと考えられている家事（食事の準備や後片付け、掃

除、洗濯など）や家族の世話などを日ごろから行っていることも・若者のことです。

- ・聞いたことがあり、内容も知っている
- ・聞いたことはあるが、内容は知らない
- ・聞いたことがない

2. あなたはヤングケアラーにあてはまると思いますか。

- ・あてはまると思う
- ・あてはまらないと思う
- ・わからない

3. 家族の中であなたのお世話を必要とする人はいますか。

- ・いる
- ・いない → 14. その他へ

4. あなたのお世話が必要な家族は誰ですか。（複数回答）

- ・お父さん
- ・お母さん
- ・おじいさん
- ・おばあさん
- ・おじさん
- ・おばさん
- ・兄
- ・姉
- ・弟
- ・妹
- ・その他（ ）

5. お世話の内容は何ですか。（複数回答）

- ・家事（食事の準備や後片付け、掃除、洗濯など）
- ・介護（障がいのある人、高齢の人、病気の人のお世話）
- ・面倒を見る（兄弟姉妹のお世話）
- ・付き添い（いっしょに買い物やお散歩、病院などに付いて行く）
- ・話し相手
- ・見守り（安全かどうか注意して見ている）
- ・通訳（家族で日本語がわからない人の代わりに話したり聞いたりする）
- ・家族のお金の管理

- ・家族のお薬の管理
- ・その他（

6. お世話はだれといっしょにしていますか。(複数回答)

- ・いない（自分だけ）
- ・お父さん
- ・お母さん
- ・おじいさん
- ・おばあさん
- ・おじさん
- ・おばさん
- ・兄
- ・姉
- ・弟
- ・妹
- ・その他（

7. お世話を始めたのはいつからですか。

- ・小学校入学前から
- ・小学校1～2年生から
- ・小学校3～4年生から
- ・小学校5～6年生から
- ・中学校1年生から
- ・中学校2年生から
- ・中学校3年生から

8. どのくらいお世話をしていますか。

- ほぼ毎日
- 週に3日～5日
- 週に1日～2日
- 月に数日

9. お世話をする時間は1日のうちどのくらいですか。

- 1時間未満
- 1～2時間
- 3～4時間

- 5～6時間
- 6～7時間
- 7時間以上

10. お世話をすることで「できないこと」、「困っていること」はありますか。（複数回答）

- 学校に行きたくても行けない
- 学校に遅刻する、学校を早退する
- 宿題など勉強する時間がない
- 寝る時間が足りない、寝る時間が遅くなる
- 友達と遊ぶ時間がない
- クラブ活動や習いごとができない
- 自分の時間がない
- 特にない
- その他（ ）

11. あなたはお世話をだれかに相談したことはありますか。

- ある
- ない

12. 「ある」の人にお聞きします。相談した人はだれですか。（複数回答）

- 学校の先生
- 保健室の先生
- スクールカウンセラー
- スクールソーシャルワーカー
- いっしょに住んでいる家族
- しんせき
- 友達
- 近所の人
- その他（ ）

13. 「ない」の人にお聞きします。相談しないのはどうしてですか。（複数回答）

- 相談するほど困ってないから
- だれに相談していいかわからないから
- 相談できる人がいないから
- 家族のことは話したくないから

- ・相談しても変わらないと思うから
- ・その他（ ）

14. その他、伝えたいことなどがあれば、自由に書いてください。（自由記載）

15. 最後に「話がしたい」、「相談したい」人のみ、名前を書いてください。名前を書いてくれた人には、役場のこども家庭課の人や学校の先生がお話を聞きます。
（名前： ）

＝ヤングケアラーに関する相談・連絡先＝

岩手県ヤングケアラー相談支援窓口（委託：特定非営利活動法人 もりおかユースポート）

➤ヤングケアラー支援専用電話 080-8201-4053

【受付時間】 月～金曜・第2、4土曜 9：00～17：00

夜間対応 毎週火曜 18：00～20：00

➤メール相談・LINE相談

mail@y-carer.net

➤おしゃべり広場 palori loco（ヤングケアラーサロン）

- ・土日・祝日や長期休みの期間に開催
- ・オンライン（Zoom）/会場参加
- ・ホームページ・SNSで開催状況をお知らせしています。

町の支援機関

➤矢巾町役場

- ・こども家庭課こどもあんしん係 TEL：019-611-2831

児童相談所

➤岩手県福祉総合相談センター

- ・地域相談課 TEL：019-629-9604